

## *Special Interest Group*

「運動学習 科学を実際の症例に活かそう！」

**注意の焦点化 グループ**

# 注意の焦点化グループの討議内容

---

前期: **立位バランス**の**運動学習**を目的とした理学療法  
を実施する上で**注意の焦点化**をどのように用いるか?

後期: 日常生活の歩行を考慮して、**様々な状況での歩行の**  
**運動学習**を目的とした理学療法を行う上で  
**注意の焦点化**をどのように用いるか?

# 注意の焦点化班の流れ

全体講義

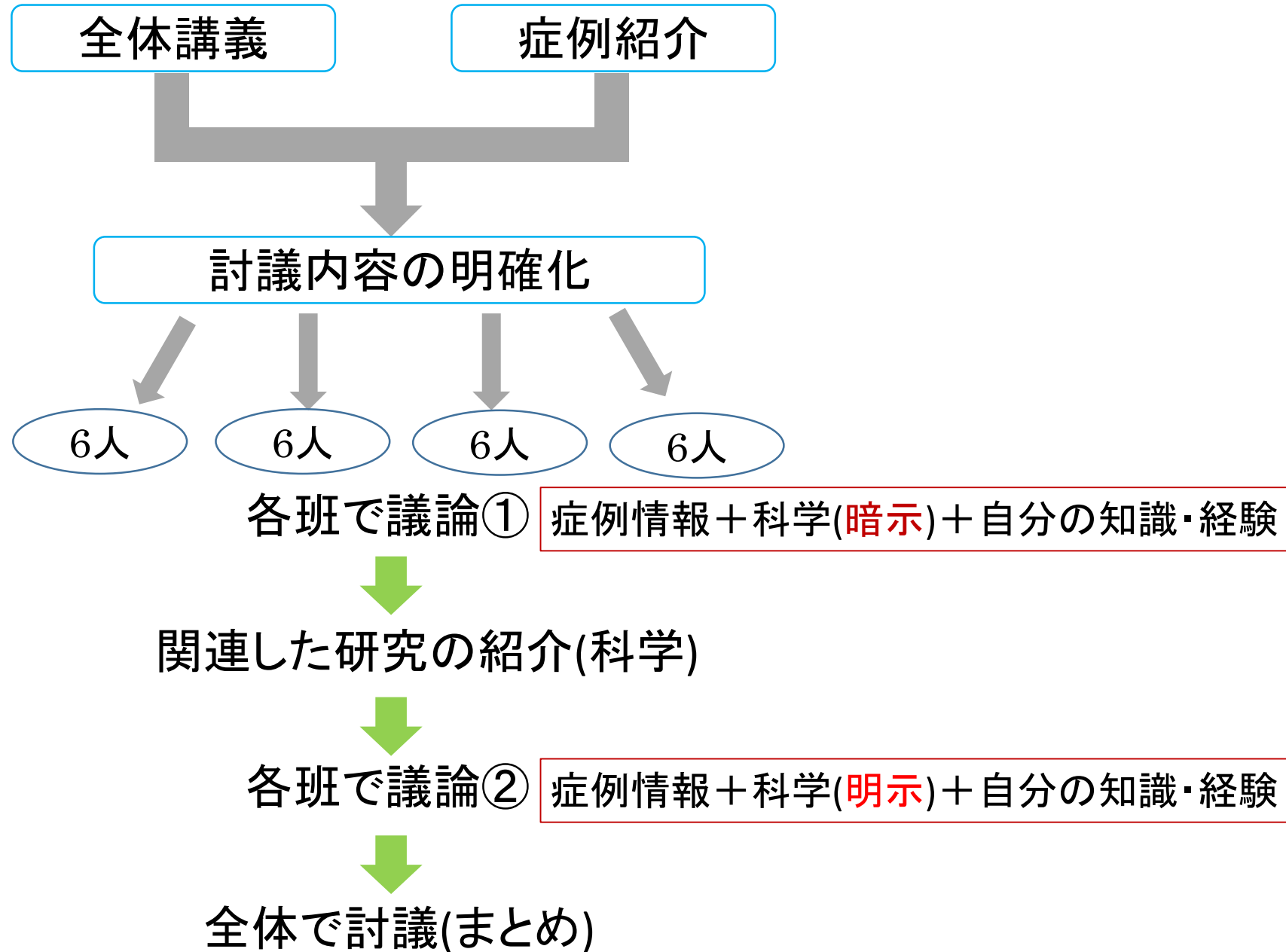
症例紹介

討議内容の明確化

前期:

開脚立位の不安定性の改善を  
目的とした理学療法を実施する上で、  
注意の焦点化という視点から、  
何をどう評価し、どう介入するか?

# 注意の焦点化班の流れ



# 前期の討議内容

開脚立位の不安定性の改善を目的とした理学療法を実施する上で、注意の焦点化という視点から、何をどう評価し、どう介入するか？

注意の焦点化という視点から  
何をどう評価するか？

- 
- 
- 
- 

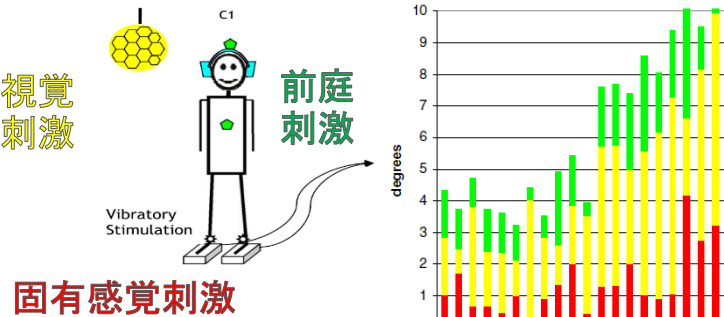
注意の焦点化という視点から  
どう介入するか？

- 
- 
- 
-

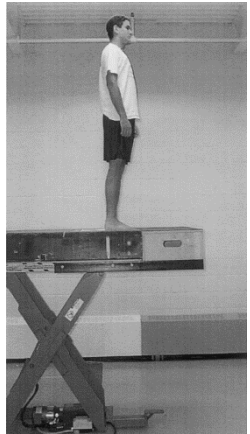
# 前期の討議内容

注意の焦点化という視点から  
何をどう評価するか？

- ①注意は身体内・外のどちらに向いているか→二重課題
- ②感覚依存評価→開眼・閉眼



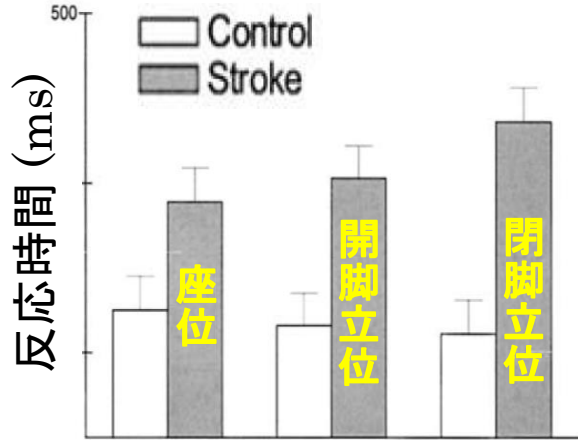
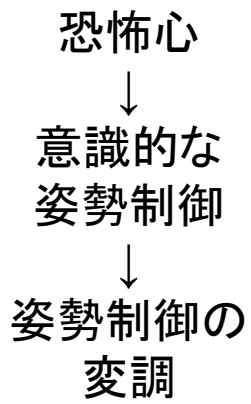
各感覚刺激への反応は  
個人差がある. (Bonan IV 2013)



Huffman JL 2009

注意の焦点化という視点から  
どう介入するか？

- ①難易度設定→最適難易度での二重課題
- ②開眼・閉眼を使い分ける



Brown LA 2002

- ①感覚依存評価→開眼・閉眼, 頸部
- ②注意は身体内・外のどちらに向いているか→二重課題
- ③スティフネス(努力的)の程度
- ④立位の左右非対称性がどのような感覚の問題によって生じているか

- ①②体性感覚に注意を向ける, 閉眼
- ②③二重課題を併用した立位練習(症例の能力によっては身体内部に注意を向けて練習を開始しても良い)
- ②③難易度調整→姿勢, 装具, 杖, ライトタッチ

# 後期の討議内容

1ヶ月後に退院することを想定し、退院後の日常生活での転倒回数の減少を目的とした理学療法を実施する上で注意の焦点化をどのように用いるか。

注意の焦点化という視点から何をどう評価するか？

- 
- 
- 
- 

注意の焦点化という視点からどう介入するか？

- 
- 
- 
-

# 後期の討議内容

注意の焦点化という視点から  
何をどう評価するか?

- ・注意機能の評価や二重課題の評価
- ・
- ・

注意の焦点化という視点から  
どう介入するか?

- ・注意を身体外部に向けた練習
- ・方向転換動作では視覚的な指標を用いて練習しても良いか

転倒群では歩幅や  
麻痺側ステップ長  
の減少率大きい  
Baetens T 2013

Dual task歩行練習の効果

- ・認知dual→認知dual
- ・運動dual→運動dual
- ・dual task歩行速度に有効  
Liu YC 2017, Pang MYC 2018,  
Plummer P 2018

脳卒中後の歩行リハに  
おけるInternal or  
external focusの指示や  
フィードバックの使用  
Kal E 2018

- ・
- ・
- ・
- ・またぎ動作は、前半では障害物の高さを変えるなどして、障害物に注意が向きやすいようにする。後半は上肢運動課題や認知課題を含んだ二重課題でのまたぎ動作練習をしても良いか。
- ・
- ・方向転換動作は動作的な難易度や動作特性を考慮して内的注意を向けて練習するのが良いか。
- ・
- ・定常歩行は一般的な二重課題を併用した練習に加え、注意が逸れやすいような人混みでの練習を行っても良いか。
- ・